

水辺に映る生物多様性：  
人工の治水施設が三十数年たち自然の湖沼のような風景に



撮影：2013年11月（埼玉県・さいたま市見沼区春野）

◆治水の調節池が自然とふれあいの場に

深作川遊水地は1980年代まで常時水面はなく、タイヤ・自転車などが不法投棄されていました。その後、環境共生をテーマに“アーバンみらい東大宮”の開発とともに常時水面を創出し、野鳥や水生生物の棲む“多自然遊水地”が生まれました。

郊外団地開発と寄り添うように環境共生型の調節池を整備することから、良好な環境創出による高い付加価値が生まれました。今では野鳥観察の見学会や遠くから魚釣りに訪れる人も多く見られます。

岡村幸二（JRRN会員）